

5月18日

～福島のようなことを二度と繰り返してほしくない 再稼働の判断をする前に福島の実情を視察すること～ おおい町への申し入れ：福島とおおい町の人々が一人一人訴えました



5月18日、おおい町へ申し入れを行いました。福島からの4名の方が作成した要望書と、プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会 / 原発設置反対小浜市民の会 / グリーン・アクション / 美浜の会で作成した要望書を提出しました。その前日に行われた「福島の人たちとの交流・座談会」で申し入れを呼びかけました。すると、おおい町から4名もの参加があり、福島・おおい町・小浜市・関西から総勢14名にもなりました。役場では午前10時から約45分間、企画課長が対応しました。

最初に、それぞれの要望書を渡しました。福島の方々からは体験を語り、福島のようなことを二度と繰り返してほしくない、町長が再稼働の判断をする前に、福島に来て現状を見てください、今ならまだ間に合う、などを訴えました。また福島原発立地の大熊町役場前では、1年以上経っても、炊き出しのお釜がご飯が少し残ったまま放置されていました。外に出てはいけないという情報が徹底されず警官から知らされて慌てて室内に入ったことの象徴です。事故が起こって町役場も翻弄されたことから、事故が起こったらおおい町の役場のみなさんも大変な思いをする、同じ大変な思いをされるなら再稼働の前に頑張してほしいと訴えられました。私たちからは、「規制庁も避難ルートの複線化も耐震安全性評価も『再稼働の前提ではない』とする国の姿勢に異議を表明してください、原発の停止に伴う雇用や生活の悪化・不安に対して十分な支援や補償を具体化するよう早急に国に求めてください、再稼働の判断をする前に拙速な再稼働に対する不安や批判の声にこたえてください」と要望しました。

そして、おおい町の方々一人一人が直接町に語りました。それぞれが抱えている思いとともに、再稼働の判断をしないでほしいと静かに訴えました。

- ・ 福島の話聞いて思った。再稼働を判断する前にまず町は福島に行ってください。
- ・ 覚悟を決めて住民説明会に行き、不安な思いをみんなが持っていると感じた。このまま再稼働すれば、周りから白い目で見られるという不安もある。針の山の上に座っているようだ。町はみんなの意見を聞いてよく考えてほしい。
- ・ 雇用が心配だから再稼働するのは仕方がないというのは通らない。時間的な余裕を持って議論すべき。雇用の問題を他の市民団体の方が心配して国に訴えるというのは、本来は町がする仕事なのに、おおい町民として恥ずかしい。
- ・ 政治経済などの社会性から判断するのではなく、福島で起こっているリアリティー・現実を重視すべき。そこには「自然」というものがある。このままでは安全神話の再稼働だ。
- ・ 住民説明会で出た意見一つ一つに対して具体的に応えてほしい。
- ・ おおい町は国に安全性を確認してもらおうという姿勢だが、福島の話聞いて棄民だと思った。国のために頑張ってもいざ事故が起こったら、国は住民を守ってはくれない。そんな国が判断する安全性は信じられない。安全性もおおい町で見ていくべきだ。 などなど。

課長は、町長が再稼働の判断をする場合には、住民説明会も重要な判断材料だと認めました。そしてせっかく福島から来たのだから直接町長に会わせてほしいと要求し、副町長に会うことができました。福島とおおい町の人たちがつながった申し入れとなりました。